

**主 題：「喜びと思いなさい」 試練は喜びである**  
**聖書箇所：ヤコブの手紙 1章2-4節**

今、遂にこの時がやってきたと感じています。私は23年間ここで育ち、いつもそちら側のそここの席に座って、常に父がここに立っているのを眺めてきました。実際に私がここに立つきょうが来たということは本当に感謝だなと感じています。また、神学校に行っていますけれども、そのために皆さんひとりひとりが祈りによってサポートしてくださっていること、ライブの先の沖縄の兄弟姉妹の皆さんも常に私のことを支えてくださっていることにこの場を借りて感謝したいと思います。

**★ きょうのテーマ：試練と喜び**

今朝、皆さんとともに考えていきたいことは試練と喜びということです。アメリカから帰って約1カ月ほどがたちました。その間、私は多くの友人に久しぶりに会うことができました。友人と食事をしたりした中で、私は二つの質問を友人たちに投げかけました。一つ目はこの一年楽しかったこと、喜んだことはどんなことがありましたか、そして二つ目はこの一年間で大変だったこと、困難なことはどんなことでしたかと。すると、残念ながら多くの方が私はこんなことがあってうれしかったと言うよりもまず、私はこんなことが大変だった、私はこんなことがあったという愚痴が先に出ます。これは別に友人だけではないと思います。私たちが口を開けた時に出てくるのは、まず喜びのことばでしょうか？それとも困難のことばでしょうか？実際、皆さんは最近試練というものを経験されているでしょうか？私たちが生活をしていれば、例えば経済面であったり、健康面であったり、また職場であったり、家庭内であったり、友人関係であったり、ありとあらゆる場所でさまざまな試練を経験されていることだと思います。そしてまた私たちがクリスチャンとして歩いていく中であって、私たちの持っている罪というのが神の持っている完璧な基準に合わないがゆえに、私たちは罪との葛藤というものを、試練というものを味わっていると思います。

人間的に考えれば、試練や苦しみというものを喜ぶことはできないと思います。きょうのタイトルにあります、「喜びと思いなさい」、「試練は喜びである」と言った時に、ある人たちはいや、そんなことはできませんと感じてしまうかもしれません。私たちは望んではいませんけれども、生活をしていれば必ず会う試練について、まず皆さんに最初に覚えていてほしいことは、クリスチャンとして歩む私たちにとって試練を喜ぶことができると聖書が教えているということです。私たちクリスチャンだけでなく、すべての人が試練というものを経験しますが、クリスチャンはその試練を違った見方、それを喜びであると見ることができるということです。今、もし試練を経験されている方、どうかこのみことばを心にとめてください。それがあなたの励ましになることを私は望んでいます。またこれから必ず私たちが経験していく試練が起こった時に、どうか皆さんこのみことばを思い起こしてください。

**A. 質問：なぜヤコブは試練に会うとき、それをこの上もない喜びであると言えたのか？**

今朝のテキストはヤコブ1：2-4ですが、1節から読みます。

- :1 神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、国外に散っている十二の部族へあいさつを送ります。
- :2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。
- :3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。
- :4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。

**1. ヤコブの手紙の宛先**

さて、このヤコブの手紙というのは、ほかの多くの新約聖書にある手紙と異なる点があります。さまざまな点がありますが、まず一つは、例えばパウロが書いたローマ人への手紙、第一コリント人への手紙を見ていただくとわかりますが、多くの場合、著者は「あなたがたに平安がありますように」また「あなたがたのことをいつも神に感謝しています」と書いています。しかし、このヤコブの手紙はそうではありません。あいさつをした次の節には「**試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい**」というふうな命令がされています。なぜヤコブはこのように言ったのでしょうか？なぜこのような命令を下したのでしょうか？ヤコブの手紙は多くの方が好きな手紙だと思いますが、ここにはさまざまな知恵について書かれています。みことばを聞くだけではなく実践しなさいと。このヤコブの手紙は祈りについても教えてくれています。さまざまなことを教えてくれているヤコブがまず最初に持ってきたのが試練を喜べでした。なぜヤコブは最初に試練というものを持ってきたのでしょうか？なぜヤコブは読み手に対してあなたがたのことで感謝しますと言わなかったのでしょうか。彼らに感謝するところがなかったのでしょうか？そうではありません。その理由はヤコブがこの手紙を宛てた読み手たちが非常な苦しみ、非常

な試練に会っていることを知っていたがゆえにそのように書いたのです。ヤコブはこの手紙をその試練を経験している彼らを励ますために書きました。ですから、このようにまず「試練に会うときは、……喜び」なさいという命令が下されているのです。

では実際、読み手たちがどのような試練に会っていたのでしょうか？それについては2節から私たちに教えてくれています。まず2節の初めに「私の兄弟たち」ということばが出てきます。このことばはヤコブの手紙の中に15回繰り返して使われてでいます。この「私の兄弟たち」というのは、1世紀パレスチナ地方以外に住んでいたユダヤ人クリスチャンのことを指して言われていることばです。このユダヤ人クリスチャンたちに関する特徴として、1節に「国外に散っている十二の部族へあいさつを送ります。」と書いています。ですから、ヤコブが言っている「私の兄弟たち」、ユダヤ人クリスチャンたちというのは、「国外に散って」たのです。

### 1) 彼らが国外に散っていた二つの理由

ではなぜ「国外に散って」たのでしょうか？その理由としては大きく二つ考えられています。

#### (1) ステパノの死

一つ目の理由として挙げられるのは、まずステパノの死です。使徒8：1に「サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外の者はみな、ユダヤとサマリヤの諸地方に散らされた。」と書かれてあります。また少し先の使徒11：19には「さて、ステパノのことから起こった迫害によって散らされた人々は、フェニキヤ、キプロス、アンテオケまでも進んで行ったが、」と記されています。ここを見た時にステパノが殺されたことによって、同じようにクリスチャンたちは迫害される危険性があったのです。ですから彼らはその国にとどまることができず、ユダヤの方に散らされていったと書かれています。

#### (2) ヘロデによる迫害 使徒12：1-3

また、二つ目の理由として挙げられているのは、ヘロデ・アグリッパ1世の迫害の結果であると使徒12：1-3に記されています。

どちらにせよ彼らは、クリスチャンであるがゆえに迫害を受けていたということです。迫害を受けていたがゆえに、迫害を受ける可能性があったがゆえに自国から逃げていく、自国から去っていくしかなかったのです。ですから彼ら、「私の兄弟たち」、ユダヤ人クリスチャンたちというのは、国外に散っていたのです。

### 2) 彼らが経験していた試練 2節

彼らが経験していた迫害、苦しみというのは、実はそれだけではありません。ヤコブは2節に「私の兄弟たち」に続いて、「さまざまな試練に会うときは」ということばを続けています。「さまざまな」ということばが使われていますが、これは「色とりどり」や「多種多様」という意味のことばです。ですから彼らはクリスチャンであるがゆえに、殺されるかもしれないという迫害を受けていただけではなく、ほかにもさまざまな試練を受けていたとヤコブは言っています。

#### (1) 貧しさ

その例として三つほど挙げましたが、ヤコブ1：9には「貧しい境遇にある兄弟は、自分の高い身分を誇りとしなさい。」と言っています。兄弟たちの中に貧しい境遇にある人たちがいました。貧しさによって苦しんでいる、貧しさという試練を受けている兄弟もいたということです。

#### (2) 貧しさゆえに受ける軽蔑と暴行

また、ヤコブ2：6には「それなのに、あなたがたは貧しい人を軽蔑したのです。あなたがたをしいたげるのは富んだ人たちではありませんか。また、あなたがたを裁判所に引いて行くのも彼らではありませんか。」と書かれています。ですから、クリスチャンの中にある貧しい人たちが富を持った人によって軽蔑されていたと。またそれだけではなく、「あなたがたを裁判所に引いて行く」の「引く」ということばには、身体的な暴行を意味することばが用いられています。時代劇によくあるお代官様が貧しい人たち、借金を返せない人たちを無理やり引きずって裁判所に連れていく、お役所に連れて行くという意味を持ったことばがここで使われているのです。ですからここでは貧しい人たちが富を持った人に軽蔑されていただけではなく、富を持った人たちに引きずって暴力を受けながら無理やり連れて行かれる、そのような試練を受けていたと記されています。

#### (3) 病

またヤコブ5：14には「あなたがたのうちに病気の人がいますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。」と書かれています。初めに「あなたがたのうちに病気の人がいますか」と聞いているように、病気の人がいなければこのように聞きませんから、病気の人がいたがゆえにこのように言っています。

三つの例を見ましたが、これだけを見ても彼らは迫害だけではなく貧しさであったり、貧しさゆえに軽

蔑を受けていたり、また身体的な暴行を受けていたり、また病気を患っていたと。

## 2. ヤコブの命令のポイント 2節

こんな苦しみに会っている読み手に対して一番最初にヤコブが命令したのが「さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。」でした。この命令を理解する上で三つ大事なポイントがあります。

### 1) 「会う」

まず一つ目に「さまざまな試練に会うときは」と、「会う」ということばが記されています。この「会う」ということばは、「狩り」から派生したものです。どういうことかということ、獵師が動物を捕まえるために罠をしかけます。その罠は当然見えないように隠して仕掛けられます。そういったものを仕掛けておいて、動物が通った時に動物が罠に引っかかると。動物は罠があるなどということを予想していません。動物が通ったときに、予期せぬときに罠に引っかかってしまう。同じように、ここの「会う」ということばは「予期せぬときに出会う」という意味です。「突然出くわす」、街角を歩いている時に突然何かが出てくるという意味のことばがここに用いられています。

### 2) 「とき」

また二つ目に「さまざまな試練に会うとき」とヤコブは言っています。ここでヤコブは、もしさまざまな試練に会えば、それをこの上もない喜びと思いなさいとは言わなかったということです。ここでヤコブは「会うときは」と言っています。これは「試練に会う」ということの可能性の話をしているのではなく、それは絶対に避けられない事実であることを表しています。

### 3) 「思いなさい」

また三つ目に「喜びと思いなさい」ということばがここで使われています。この「思いなさい」ということばは「考える」や「評価する」という意味です。ここに感情という意味は含まれていないということです。ここでヤコブが言いたいのは、試練に会ったとき、多くの皆さんはそれを感情で判断してしまいがちですが、ヤコブはそうではない、感情で判断するのではなく、知的にその試練というものが喜びの源であると考えなさい、そういうふうにとらえなさいと言っているのです。

これらのことをまとめて2節を読むと、「あなたがたは予期せぬとき、数々の試練にこれからも必ず会います。それは避けられない事実です。しかし、そのときにこそあなた方はその試練を自分の喜びの源として考えなさい」と言っています。

さて、これを聞いて正直皆さん、どのように思われますか？「試練に会えば喜びと思いなさい」、これを聞くだけであれば問題ないと思います。でも実際に自分が試練に会っているときに喜びと思えるのかということなのです。

## ◎ 聖書の中で繰り返される「喜び」に関する記述

聖書はヤコブのこの箇所だけでなく多くの箇所で喜びなさいということを私たちに命令しています。「喜び」ということに関してさまざまな場所で記されています。

詩篇37：4には「主をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。」とあります。またイエス様ご自身もヨハネ15：11で「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。」と言っています。またピリピ4：4には「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。」と書いてあります。ですから喜びということに関して聖書は繰り返し私たちに命令をしています。皆さんこの「喜びなさい」という命令に関して、これが最も難しい命令だと思ったことはないでしょうか？多くの皆さんにとって、隣人を愛するということに関して難しさを感じることに、ずっと隣人を愛し続けていくことに関してその難しさを感じることはもちろん多くあると思います。しかし、ここで「喜びなさい」、ずっといつも喜んでいなさいと言われたときに、私たちは多くの場合「喜び」というものを失っていたりする者ではないでしょうか。ヤコブはここで「喜びなさい」という命令をしました。しかも試練に会うときに喜びなさいと命令を下した。人間的に考えれば、試練のときに「喜び」という感情は恐らく絶対に出ない感情です。

## B. 質問：なぜヤコブは試練を喜ぶことができると言えたのだろうか？ 3-4節

しかし、それでもヤコブは喜べと言います。そうすると、このような疑問が浮かんでこないでしょうか？なぜヤコブは試練を喜ぶことができると言ったのかということなのです。理由がなかったのでしょうか——。いえ、ヤコブには確固たる理由があったがゆえにこのような命令をしました。それについて3-4節が教えてくれています。ヤコブは試練がなぜもたらされるのかという理由とその目的について知っていたがゆえにこのように言うことができました。

### 1. 試練が与えられる理由 3節

#### 1) 「ためされる」

3節にはこのように書かれています。「信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知って

いるからです。」、この「ためされる」というのは、ギリシャ語で「あるものが本物かどうかを調べる手段や過程」を表すことばとしてここに用いられています。英語のテキストには、「テスト」ということばが用いられています。この「ためされる」ということばは、聖書の中にはヤコブ 1 : 3、また I ペテロ 1 : 7、旧約聖書の中では詩篇 12 : 6、箴言 27 : 21 の 4カ所にしか用いられていないことばですが、特にこの箇所をよりわかりやすく、よりイメージしやすく説明してくれる、同じような意味が使われているのは詩篇 12 : 6 です。ここには「主のみことばは混じりけのないことば。土の炉で七回もためされて、純化された銀。」と書いています。金や銀に対してさまざまなイメージがあると思いますが、私たちが持っている銀や金のイメージはきらきらしたものだと思いますが、銀や金が初めからぴかぴかしているものかと言うと、そういうものではありません。銀や金というのは、初めはさまざまな不純物の中に混ざっているのですが、それを熱い炉の中に入ると、金や銀の周りについていた不純物がどんどん除かれていくわけです。そして、除かれていって最後に本来の形の銀や金が見つかるのです。この「ためされる」ということばは同じようなことで、私たちの信仰というものも初めはさまざまな不純物が混ざっていると。その不純物が混ざっている私たちの信仰を試練という火を通すことで不純物がどんどん落ちていって、本来の混じり気のない純粋な信仰が出てくると。

## 2) 「忍耐」

そしてその不純物が落ちた信仰の最終的な結果として、「忍耐」が生じると書いてあります。この「忍耐」ということばを聞くと、多くの方は「ずっと我慢する」、「ひたすらに耐え続ける」というイメージを持つかもしれませんが、ここで言っている「忍耐」というのはそういう意味を持つことばではありません。ここで使われている「忍耐」というのは戦場で生死をさまよっているような勇敢な戦士が持っている不屈の精神であったり、どんな状況にも耐えられるような「忍耐」を言っているのです。ですから受け身的な意味ではなく、どちらかといえばよりアグレッシブな意味を持ったことばです。この「忍耐」を持つということに関して、ここでは、どんな困難、どんなことがあったとしても、どんな状況にあったとしても、揺るがされることがなく真理に立ち続ける、そういった様子のことばをここで用いているのです。

これに関しては II テサロニケ 1 : 4 に「それゆえ私たちは、神の諸教会の間で、あなたがたがすべての迫害と患難とに耐えながらその従順と信仰とを保っていることを、誇りとしています。」と書いています。またここだけではなく、同じことをヘブルでも言っています。ヘブル 11 : 36 - 39 には「また、ほかの人たちは、あざけられ、むちで打たれ、さらに鎖につながれ、牢に入れられるめに会い、また、石で打たれ、試みを受け、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、乏しくなり、悩まされ、苦しめられ、——この世は彼らにふさわしい所ではありませんでした。——荒野と山とほら穴と地の穴とをさまよいました。この人々はみな、その信仰によってあかしされましたが、約束されたものは得ませんでした。」、続いてヘブル 12 : 1 「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。」と書かれています。ヘブル 11 章は信仰の勇者について書かれているところですが、信仰の勇者と言われる人たちでさえもさまざまな試練を経験したと。今お読みした 11 : 36 - 39 を見ると、今、私たちは耐えられるでしょうか？それほど激しい試練、困難、苦しみに信仰の勇者たちも会っていたのです。しかし、彼らはその中にあっても神様に対して信頼し、そして神のみこころを追い求めていったがゆえに信仰というものがますます成長していきました。私たちの主であるイエス・キリストもそうです。十字架の上で彼が受けた痛みというものはどんな人も経験したことのないものでしたが、イエス・キリストは最後の最後まで父のみこころに従いました。

私たちも同じことが言われています。もちろんひとりひとりの経験している試練が簡単で耐えるのがやすいとは言いません。それは辛く、また耐えることに非常に困難なものかもしれません。しかし、神はこうも言われています。「あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。」と I コリント 10 : 13 で言っています。どれだけその試練が耐えるのに困難なように見えたとしても、私があるあなたに与えている試練というものはあなたが耐えられるものだと言っておられます。

私たちにこの試練が与えられている理由は、試練を通して私たちの持っている信仰を強めるため、そしてどんな状況にあっても揺り動かされることのない忍耐を私たちが持つことができるようになるためなのです。

## 2. 試練を通して達成される目的 4 節

### 1) 忍耐の持つ効果を完全に発揮させる

しかし、ヤコブは私たちの信仰がそういった試練によって強められて、忍耐を持つことができるというところで終わってはいません。最後に「その忍耐を完全に働かせなさい。」とヤコブ 1 : 4 の一番初めで言っています。この「働かせなさい」という現在形の命令ですが、これは継続して働かせていきなさいと

ということが言われています。日本語で「その忍耐を完全に働かせなさい。」と言ったときに、イメージがし辛いかもしれませんが、例えば英語の聖書では「忍耐の持つその働きを完成させなさい」であったり、「忍耐が持つその効果を完全に発揮させなさい」ということばで表されています。ここで言っているのは、「忍耐」を持つというのがゴールではなく、その「忍耐」が持っている効果を発揮させるというのがゴールであるとヤコブが言っているわけです。

## 2) 成長を遂げた完全な者となる

ではその「忍耐」が持つ働き、その「忍耐」が持っている効果は一体何なのかというと、ヤコブは「あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」と続けています。この「忍耐」が持っている働きは何かというと、私たちを「完全な者」にするということです。「完全な者」と言ったときに、もちろんこれは私たちの罪が全くなくなるというようなことを表しているわけではありません。この「完全な者」というのは、幼かった子どもが段々成長して大人になって行くような、信仰というものも幼かったものが段々と成熟したものになって行く、そういう意味を持っています。初め私たちの持っていた欠けた所のたくさんある信仰がどんどん成熟して行くことによって、「何一つ欠けたところのない」者になっていくということです。もちろん私たちが完全さというものを手にするのはこの地上ではありません。この地上が終わった後、天に昇ったときに私たちは本当の完全さというものを手にすることができます。しかし、私たちがクリスチャンとして歩いていくときに、私たちにはよりキリストに似た者になっていく、より「完全な者」、より成熟した者になっていくという責任があるということです。

同じことを1ペテロ5：10でもこのように言っています。「あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあってその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみあついで完全にし、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。」と。ですからなぜ試練が与えられているのかという理由は、「忍耐」を持つために。そして試練が与えられている目的は、私たちがキリストに似た者になっていくためにということです。試練を通して私たち欠けていた者がよりキリストに似た者になっていく、それが試練の目的だとヤコブは言っているのです。

もし私たちがこの世のことばかり考えて、試練そのもの自体を経験しないようにと、またその試練そのもの自体をどうにかしてこの試練を解決しようというところにフォーカスを置いて、その点をどうにかしようとしているのであれば、このヤコブ1：2-4で教えられていることは理解できないと思います。私たちは必ず試練を経験します。しかし、私たちがその試練がなぜ私たちに与えられているのかという理由を知り、またその目的を知り、そして試練というものは私たちがキリストに似た者にならなければならない成長のとき、成長の場所であると考えて忍耐を持って歩いていけば、皆さんはこの試練というものを喜ぶことができます。

## 結論

そして私たちはこのような喜びを持つことができるだけではありません。ヤコブ1：12には「試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。」とあります。ですから試練が易しく皆さんにとって楽なものであるとは言いません。試練というものはもちろん苦しく、簡単ではありません。しかし、聖書が教えるのはそれを通して皆さんがキリストに似た者になっていく、本当の忍耐を持って歩いていくのであれば、あなたが天で神から与えられる報いというものは大きいと。だからこそ私たちはこの試練というものを喜ぶことができます。

私たちの神は一体どのようなお方でしょうか——。神は私たちに憐れみを示してくださる神です。詩篇145：9には「主はすべてのものにつくしみ深く、そのあわれみは、造られたすべてのものの上にあります。」と。神は私たちすべてに憐れみ深いお方です。またそれだけではなく、神は一体どれだけ私たちのことを知ってくださっているのでしょうか——。神というのは私たちひとりひとり、私たちが知っている以上に私たちたちのことを知っているお方です。「われらの主は偉大であり、力に富み、その英知は測りたい。」と詩篇147：5は言っています。だからそういう神だからこそダビデは「神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。」(詩篇139：23)と叫ぶことができたのです。神が私たちのことを知らなければ、神が私たちに対して憐れみ深いお方でないのであれば、そのようなことは叫べません。しかし、神は私たちに対して憐れみを持っておられ、また私たちがどういう人間なのかということを知っていると。その神が私たちに試練を与えてくれているわけです。神は私たちの心のどこが欠けているのかを知っているということです。

ある人にとっては、隣人を愛することが欠けているのかもしれません。そういう人に対しては、神は隣人を愛することができるような者に成長させてくださる試練をも与えられるということです。もし神にどんな時も信頼することができない、そういう点において欠けている人には、神はどんなときでも神に信頼を置くことができるようにという試練をも与えられるということです。予期せぬことが突然起こったときに、それに対してうろたえてしまって、すぐに文句を言うてしまうような人に対しては、そう

ということがあったとしても動揺するのではなく神に目を向けることができるような者へと成長する試練をも与えられるということです。

ヤコブが記したこと、また神が言っていることは、試練をも喜べると。この喜びというものは、この世の喜びとは全く違うものです。私たちは多くの場合、例えば苦しみを経験した後、やっとこの試練が終わった、神様、感謝ですと喜ぶ人もいます。そうではない。この喜びというのは、私たちがこの試練の中にあるときでさえも私たちは神に喜べると、神に感謝できると。ですから私たちクリスチャンが持っている喜びというのは、こういうことを経験した結果、喜べるものではなく、その過程にあつて私たちは大いに喜ぶことができると。それが私たちの持っている本当の喜びだということです。

まだ神を知らない人、だれでもないあなたのために、あなたの罪のために死んでくださったイエス・キリスト。そのイエス・キリストを自分の主として認めず、拒み続けている人。どうかきょうこのときに自分の罪深さを認め、イエスが十字架と復活を通して成し遂げてくださった救いを自分のものとして受け入れてください。ローマ6：23は「罪から来る報酬は死です。」と言っています。ですから罪ある者、罪人に対して聖書が約束しているのは死と永遠のさばきです。聖書はこの世で経験するどんな試練よりもさらに厳しい苦しみがあるさばき、神のさばきをそういう人に用意していると明記しています。そこには喜びというものは一切ありません。ただ永遠に苦しみだけが続いていく。ですからどうかこの神を知らない人、きょうこのときに自分がこれまでやってきた間違っただけの生き方を悔い改めて、この神が与えてくださる救いを受け入れてください。

また兄弟姉妹の皆さん、試練は喜ぶことができます。試練というものは私たちに必ずやってきます。そして私たちが予期せぬときにやってきます。その試練というものが簡単なものではありません。試練というものは私たちを苦しめるものです。しかし、その試練を通して、私たちが持っている信仰に、どんなことがあっても揺らぐことのない忍耐を与えてくださるのです。そしてその試練を通して得た忍耐を私たちが持って、試練を通して私たちがキリストに似た者へと変わっていく、その時、私たちは本当の喜びを持つことができます。この世では私たちは苦しむことが多いです。しかし、神が約束してくださっているのは、そのように試練を通して成長したクリスチャンたちに神は天で報いを与えてくださる、祝福を与えてくださると。だからこそ私たちは試練をも喜ぶことができます。

19世紀、有名な牧師であるチャールズ・スポルジョンはこのように言っています。「あなたの悲しみは喜びへと変えられる。あなたの悲しみが取り除かれるのでも、喜びが悲しみに取って変わるのでもない。あなたが今苦しんでいるまさにその悲しみが喜びへと変えられるのだ。神は辛さを取り除き、安らぎを与えるだけではない。神は私たちの持っている辛さそのものを安らぎへと変えるのだ。」と。彼は何を言いたかったのか——。皆さんが持っている悲しみというものが取り除かれてそこに喜びが入ってくるのではない。あなたが今苦しんでいるその試練や悲しみ、辛さというもののそのものが神によって喜びに変えられるということです。

ヤコブが言っているのはこういうことです。「さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。」、皆さんが喜ぶことができるからこそ、ヤコブはこのように命令したのです。ですからどうか皆さん、これから試練に会うときこのみことばを思い出してください。あなたが経験するその試練というものは喜ぶことができるということです。本当の喜びというものを持って皆さんが歩んでくださることを願っています。